

生と名け、悟時をば佛と名けたり。譬ば闇鏡も磨きぬれば玉と見ゆるが如し。只今も一念無明の迷心は磨かざる鏡なり。是を磨かば必法性眞如の明鏡と成べし。深く信心を發して、日夜朝暮に又懈らず磨くべし。何様にしてか磨くべき。只南無妙法蓮華經と唱へたてまつるを、是をみかくとは云なり。抑妙とは何と云心ぞや。只我が一念の心不思議なる處を妙とは云なり。不思議とは心も及ばず語も及ばずと云事なり。

然ればすなはち、起るところの一念の心を尋ね見れば、有と云はんとすれば色も質もなし。又無と云はんとすれば様様に心起る。有と思ふべきに非ず、無と思ふべきにも非ず。有無の二の語も及ばず、有無の二の心も及ばず。有無に非ずして、而も有無に偏して、中道一實の妙體にして不思議なるを妙とは名るなり。此妙なる心を名て法とも云なり。此法門の不思議をあらはすに譬を事法にかたどりて蓮華と名く。一心を妙と知ぬれば、亦轉じて餘心をも妙法と知る處を妙經とは云なり。然ればすなはち、善惡に付て起り起る處の念心の當體を指て、是妙法の體と説宣たる經王なれば、成佛の直道とは云なり。此旨を深く信じて妙法蓮華經と唱へば、一生成佛更に疑あるべからず。故に經文には於我滅度後 應受持斯經 是人於佛道決定無有疑とのべた

①も＝ハ②必＝即③明鏡＝玉④し＋(ト)⑤〔南無〕一⑥〔又〕一⑦に＋(モ)⑧〔し〕一⑨妙...リ〃7字＝名ヲ妙ト云也⑩事法＝蓮華⑪く＝タリ⑫れば亦＝ヌルヲ即⑬〔妙〕一⑭り＋(ト)⑮〔處の〕一⑯念〇心⑰た＝玉へ